海洋漁業

特251
598

始

海洋漁業協會

左右圖 北洋に於ける母船式鮭鱒流網漁業と獨航船

上圖 鮪延繩漁業

上圖 トロール船
丸圖 南氷洋に活躍する捕鯨船

機船底曳網漁船

鰹釣漁業

特251
598

目次

概說……一
鮭鱒漁業……六
蟹漁業と鱈漁業……一〇
捲鯨業……一三
汽船トロール漁業と機船底曳網漁業……一六
遠洋鰹鮪漁業……二〇
其の他の海洋漁業……二五
結び……五一
附錄
海洋漁業協會概要……八二

昭和十五年七月
帝國水産會

海洋漁業

海洋漁業協會編

概說

維新前後から明治の中葉にかけて頻に我が近海に出沒した外國の海獸臘船、それは黑船と呼ばれ、邊境の民を脅かしつゝ、我物顏に臘虎(らつこ)や膃肭獸(おつとせい)を濫獲して巨利を貪つた。

嘉永年間、ペルリが浦賀に來航して我が國に通商を求めた事は、維新の開國史を飾る重要な頁として誰でも知つてゐる。然し米國の通商要求の一面には、其の當時小笠原群島や沖繩方面に出漁してゐた自國の捕鯨船が、給水や食糧補充のため自由に日本の港に出入することを認めて貰ひ度いと云ふ意圖が多分に含まれてゐた事も事實である

要するに鯨、臘虎、膃肭獸等の溫床であつた日本近海に目を付けた外國の捕鯨船や

海獸臘船の跋扈に刺戟されて、遲蒔ながら我が國にも海獸臘業が勃興した。之が我が國海洋漁業の濫觴である。換言すれば沿岸漁業は建國以前に初まり、海洋漁業は開國と共に出發してゐると云ふことになる。

元來、日本人は漁業にかけては、天賦の素質と三千年の傳統を持つ國民である。一度、船を海洋に乘出したとなると、忽ち漁業に依る世界制覇を目指して、朝鮮海、支那海は云ふに及ばず、苟くも海の續く限り、北はオホツク、ベーリング、南は南洋を初め遠く南氷洋にまで駸足を伸ばし、太平洋の中心、二千五百浬の彼方までも漁場と化した。

今や雲煙萬里の外に日章旗を飜しつゝ海洋漁業に從事する大小の漁船一萬數千隻、其の乘組員は十數萬人に及ぶのであるが、彼等に依つて齎らされる年々の漁獲高は凡そ三億萬圓に達し、而も是等海洋漁獲物の大半は輸出向の水産製品に加工されて、其の輸出額一億五千萬圓に上り、世界の水産市場に君臨してゐる。

この事實から見ても、我が海洋漁業は今や單なる國内的の水産業ではなく、國富を利する輸出産業であり、又、其の舞臺から見れば、他の産業の世界進出を誘導する前驅とも云ふべき重要性を持つてゐるのである。それでは海洋漁業とは、一體、どんな漁業を云ふのであらうか。其の代表的のものを判り易く表示して見ると、

鮭鱒漁業
- 一、露領沿岸に於ける鮭鱒建網漁業
- 二、勘察加東西沿岸公海に於ける母船式沖取流網漁業
- 三、北千島に於ける鮭鱒建網及び流網漁業

蟹漁業
- 一、勘察加東西沖合に於ける母船式タラバ蟹刺網漁業
- 二、勘察加東西露領沿岸に於けるタラバ蟹刺網漁業
- 三、北海道及樺太沿海に於けるタラバ蟹刺網漁業
- 四、本州及び朝鮮、北海道、樺太沿海に於ける毛蟹、花吹蟹刺網漁業

鱈及鰊漁業

一、オホツク漁、ベーリング海に於ける鱈一本釣漁業
二、北千島に於ける鱈一本釣、延縄及び底建網漁業
三、北千島に於ける鰊流網漁業

捕鯨業

一、日本列島沖合一帶に於ける陸上根據の捕鯨業
二、南氷洋に於ける母船式捕鯨業

汽船トロール漁業

一、支那東海、黃海、南支那海を漁場とするトロール漁業
二、濠洲沖合、ベンガル灣、アラビヤ海、メキシコ沿海、アルゼンチナ沿海の海外を漁場とするトロール漁業

機船底曳網漁業

一、支那東海、黃海、南支那海等に於ける機船底曳網漁業
二、內地近海に於ける機船底曳網漁業
三、沿海州に於ける機船底曳網漁業

遠洋鰹鮪漁業

一、內地沖合、臺灣、南洋群島に於ける鰹釣漁業
二、內地沖合、臺灣、南洋、太平洋岸千浬以東に於ける鮪延縄漁業
一、南洋群島に於ける眞珠介漁業

眞珠介漁業

二、蘭領アロー諸島に於ける眞珠介漁業
三、濠洲に於ける眞珠介漁業

海外根據地漁業

一、海南島に於ける底曳網其他の漁業
二、新嘉坡に於ける流網及び追込網漁業
三、蘭領東印度に於ける雜漁業
四、英領ボルネオに於ける鰹鮪漁業
五、比律賓に於ける鰹鮪漁業
一、內地沖合に於ける鱰巾着網及び揚繰網漁業
二、朝鮮に於ける鱰巾着網漁業

其の他の海洋漁業

三、北洋に於ける底魚冷凍漁業
（一）ベーリング海に於けるトロール漁業
（二）同　機船底曳網漁業
四、其の他

等であるが、右の内數種のものに就いて簡單に解說を試みることにしやう。

鮭鱒漁業

お惣菜向の魚として大衆層に親しまれてゐる鮭や鱒が年額五千萬圓に達する輸出罐詰に製造され、國際貸借上大きな役割を果してゐることは餘りにも有名である。この魚は清冽な河川に遡つて產卵するので、我國內地の各河川でも古くから漁獲されて居るが、元々、寒流性の魚族であるから、產業的價値から云へば北太平洋が唯一の漁場

母船に集ふ鮭鱒流網漁船

である。殊に北緯四十度から六十度に至る米亞兩大陸の沿岸即ちアメリカ大陸側ではシャトル以北加奈陀アラスカに至る海區、アジア大陸側ではシベリヤ、カムサツカ、黑龍江、樺太、北海道及び東北地方北部の沿岸が好漁場として知られてゐる。

鮭鱒は夏季產卵期になると河口目掛け大群をなして海岸に押寄せて來る。そこで、其の通路に陷穴式の建網や、夜、海の上層に細長い網を何十把となく繼いで潮流のまに〳〵張流し、其の網目に群游する魚を刺させて獲る流網などで大量に漁獲する。然し陷穴式の建網は漁期中、海岸沿ひの比較的淺い所に敷設して置かなければならない。又、沿岸近くで行ふ流網にしても、罐詰や鹽鮭に製造する爲には陸上に工場を設

ける必要がある。其の爲、カムサツカ沿岸では、厭でもロシヤから漁區を借り受けなければならないのであるが、ポーツマス條約を無視して、機會さへあれば我が漁業權益を追拂はうと企らんでゐる蘇聯の不當な壓迫の爲に、毎年の樣に困難な日蘇交渉を繰返して居る事は周知の通りである。

遮莫（さもあらばあれ）、北洋に於ける鮭鱒漁業は我が輸出水産業中最も重要なものである。蘇聯の不當なる壓迫は斷乎として之を排撃し、既得漁區の確保を期さねばならぬことは云ふ迄もない。然し岸を距（さ）ること三浬の外は融通無碍（ゆうづうむげ）の公海であつて、其處で漁業を營むことは天下御免であるから、前述の如き情勢の下にあつては、公海を一〇〇%利用することは絶對に必要である。

母船式沖取鮭鱒流網漁業は斯くして生れ、十年足らずの間に異常な發展を遂げたが之は浮工場（フローチングファクトリー）とも稱すべき數千噸の母船に、多くの漁船が附隨して出漁し、流網（ながしあみ）で漁獲した鮭や鱒をどし〳〵母船に送り、母船の製造工場では之を晝夜の別なく罐詰

や鹽引に造り上げるのである。

此の漁業は昭和四—五年頃から初められたが、年々急速の發展を遂げ、今日では出漁母船七雙、附屬漁船百七十餘隻を數へ、罐詰製造高は三十五萬函（一函は一磅罐四十八個入）に達し、この數字は露領漁區に於ける製造高百三十萬函の約二割七分に當つて居る。

北洋に於ける鮭鱒建網漁業

云ふ迄もなく露領を含む北洋の鮭鱒漁業は、我が漁業者が數十年の歳月を費し、慘澹たる苦心を嘗めつゝ今日の隆盛を來したのである。北洋に於ける對露漁業權益には日露の役の尊き流血のあることを忘れてはならない。

確守せよ！北洋の漁業、それには全國民の深き關心と、力强い支援が何よりも必要である。

北洋に於ける蟹漁業と鱈漁業

オホツクやベーリングの海底を、無氣味な恰好で這ひ廻るタラバ蟹、脚を張れば尋に餘るそれは日常我々の眼に觸れるガザミやザリ蟹とは、凡そ比較にならぬほど大きなものであるが、其の怪物も漁業者の手に掛ると、忽ち鮭鱒に次ぐ重要な罐詰となり生産高凡そ四十二萬圓、其内八割强が歐米各國に輸出され年々二千萬圓以上の外貨を獲得してゐる。この樣にタラバ蟹は鮭鱒同樣北洋に於ける重要な資源であるが、蟹漁業の主要なものは、カムサツカ半島の東西沖合を漁場とする母船式蟹刺網漁業であらう。

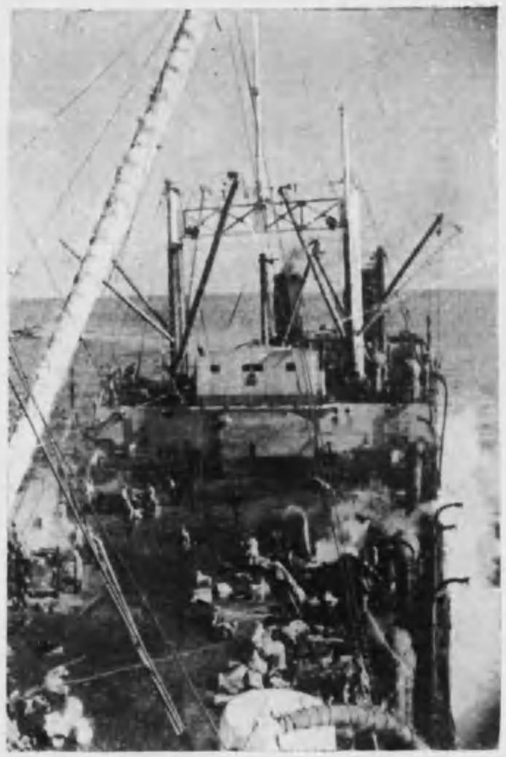
捕獲した蟹を母船蟹工場へ

母船は工船とも云はれ、其の船内には陸上の罐詰工場に劣らぬ完全な設備が施されてゐる。母船に附隨する多くの漁船は、海底を這ひ廻る蟹を網目に絡み付かせて獲る底刺網で漁獲し、それを母船に運んで罐詰に製造するのであるが、製品の大部分が歐米に輸出される事は前に述べた通りである。蟹罐詰が歐米に輸出される樣になつた動機は、歐米人が非常に賞美するロブスターと云ふ蝦の蕃殖が減少し、漁獲を制限する樣になつたので、其の代用品として今から三十數年前、我が國から輸出した蟹罐詰が頗る好評を博し註文が殺到

した。それ以來北洋の蟹漁業は急激に發展し、各船競つて濫獲を事とした結果、漁場の荒廢が目立つて來たので、遂に政府は法令に依り工船數の限定、禁止區域の設定、網目の大きさの制限等を定めて濫獲を防ぐ一方、當業者の合同を奬めるなど、永遠の漁利を確保する方針の下に今日に到つてゐる。

我が國の鱈漁獲高は總額六百萬圓である。其の内北洋で漁獲される額は七十五萬圓に過ぎず、鮭、鱒、蟹に比較すると甚だ微々たるものであるが、邦人には餘り珍重されぬ鱈も歐米人の嗜好に適すると見へ、從來歐米各國殊にアラビヤ、ポルトガル、スペイン、イタリア等には多量に輸出されてゐた。所が現在では鮭鱒及び蟹漁業の華かさに引換へて、鱈漁業が餘り振はないのは遺憾であるが、然しこの魚は分布區域廣く且つ多量に棲息してゐる上、開鱈（ひらきだら）は歐米向輸出品として洋々たる前途を持つてゐる爲め、更に鱈漁業の開發を促進し、輸出品として一層利用の途を講ぜんとする機運が昂まつて來てゐる。

捕鯨業



南氷洋で活躍する我が捕鯨母船

昔から鯨一頭獲れば七浦賑ふと云はれてゐるが、今も昔も水産業の中で、捕鯨ほど一般人から人氣を博してゐる漁業は一寸見當らない。それもその筈、極光映ゆる南氷洋上日諾英米獨各國の捕鯨船隊が屹立する氷山に砲聲を轟かせつゝ覇を競ふ壯觀は新聞やラヂオを賑はすに充分である。それだけに南氷洋と云へば

捕鯨を聯想させるほど世人に周知されてゐる。然し時代の寵兒捕鯨業も其の沿革は相當に古く、延寶年間から天保嘉永に至る網代式捕鯨、明治の中葉、諾威から傳へられ今日も引續き內地の近海で行はれてゐる諾威式捕鯨など、其の歷史は古いが、南氷洋の母船式捕鯨に參加して、國際爭覇の檜舞臺に登場してからはまだ數年に過ぎない。併もさうした短日月に長足の進步を遂げた我が南氷洋捕鯨は躍進に躍進を續け、軈て世界制覇の實を結ばんとしてゐる事は、次の數字を見ても明らかである。

昭和十三年から十四年にかけて南氷洋に出漁した我が捕鯨船隊は母船六隻、キャッチャー（船首に捕鯨砲を備へてゐる快速汽船）四十九隻で、捕獲頭數七、五四〇頭、鯨油の生產高八萬六百餘噸であつた。其の生產量から見ると諾英獨の次位であるが、之をキャッチャー一隻當りの射止めた頭數に換算すると、諾威一三一頭、イギリス一四二頭、獨逸一二〇頭に對し、我國のキャッチャーは一隻當り一五四頭を仕止めて、斷然頭角を現はしてゐる。この事實は我が砲手の優秀な技倆を雄辯に物語ると同時に

捕鯨母船の手足となつて働くキャッチャー

他の漁業と同じく軈て世界に覇を唱える前提であるとも云へやう。

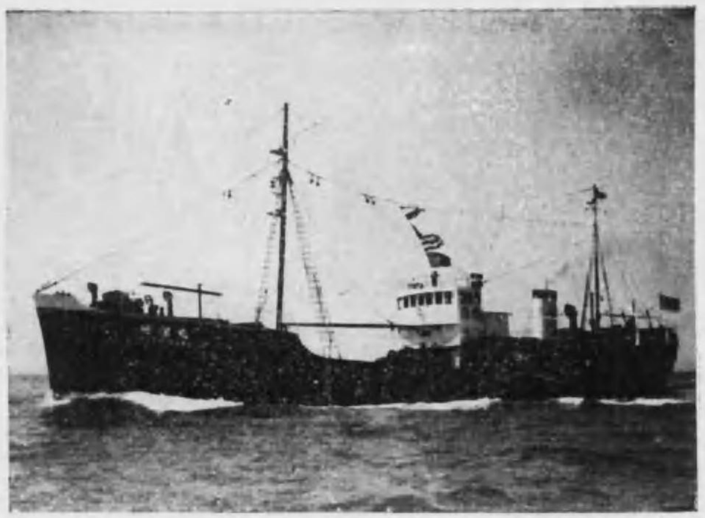
今更、事新しく述べる迄もなく、鯨は現存の動物の中で一番大きな體軀の所有者である。殊に南氷洋の白長須鯨の如きは、時に體長三十米に及ぶものがあり、牛（平均八十貫）の二百五六十倍から三百倍以上もある。この途法もなく大きな鯨が頭の天邊から尾鰭の先まで何處として捨てる所がない。少くも鯨に關する限り——無用の長物——なる言葉は不必要になるが、それでは鯨はどんな風に利用されてゐるかと云ふに、肉は食用となり、鯨皮

は皮革原料として牛皮に遜色なく、殊に鯨油の利用價値は極めて大きい。其の大半は輸出されて、歐洲人の生活になくてならぬ人造バターの原料となる外、石鹼、グリセリン、醫藥、化粧品となり、又、國防上欠くべからざるダイナマイトにもなる。其他航空機潤滑油、輕油、ガソリンを製出する方法さへ發明されるに至つた。

鯨肉の纖維で作つた洋服を着、鯨皮の靴を穿き、レストランで鯨の燒肉を註文する紳士が巷に氾濫する光景が微笑ましく想像される。既に南氷洋を征服した我が捕鯨船隊は、其の餘勢を驅つて北氷洋の鯨をも手中に收めやうとしてゐるから、軈て南北兩極洋の鯨が一堂に會する日も近いことであらう。

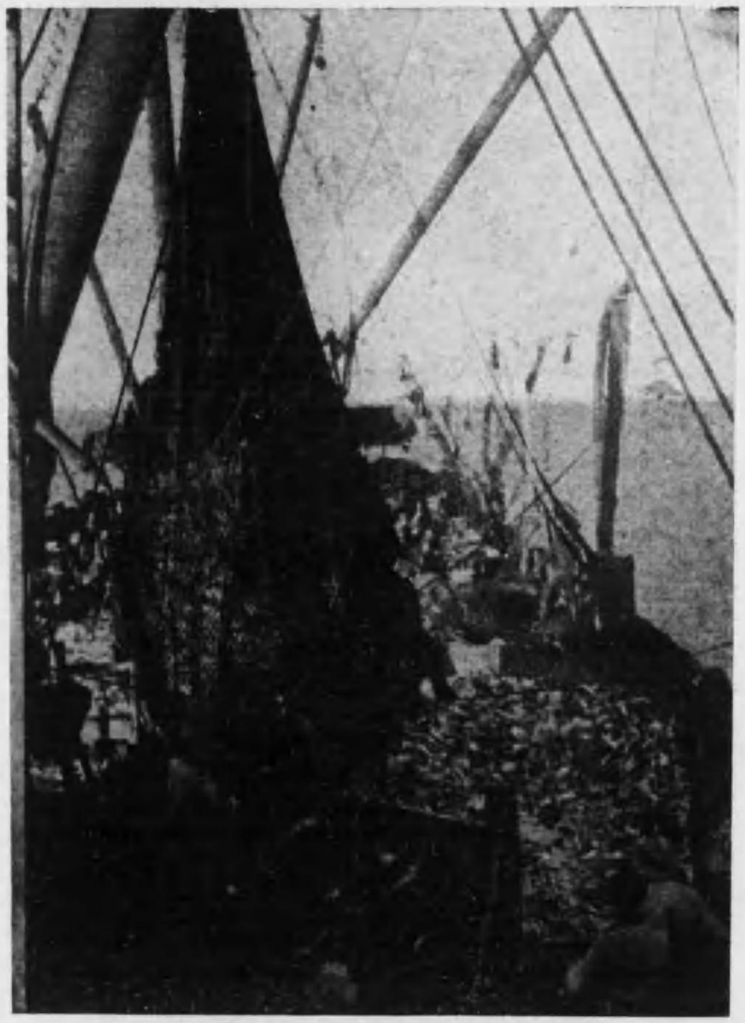
汽船トロール漁業と機船底曳網漁業

暗綠の海底に太平の夢を貪つてゐた魚族に大恐慌を起させたものは、明治の末葉、



最も能率化されたトロール漁船

英國から移入された汽船トロール漁業と、大正の初期、島根縣人に依つて着業された機船底曳網漁業であらう。兩者共一方口の嚢狀の網に長い曳綱を付けて數十尋の海底を引き廻し、鈍重な底魚を網の中に攫ひ込んで獲る仕掛けのものである。只、幾分異なる點は、トロール網はオッターボールドと云ふ凧の原理を應用した板を網口の左右に取付け、之に糸目の作用をする曳綱を付し强馬力の汽船で曳いて網口を開かせ、機船底曳網は主として二隻の發動機船で網口を擴げつゝ曳くことである。尤も我が國にも昔から海底を曳いて底魚を獲る打瀨網、手繰網など



トロール漁船の揚水

ゝ云ふ漁具があつたが是等はトロールや機船底曳の勃興以來、沿岸の一部で使用される外、全く影を潜めてしまひ、トロールと機船底曳が全盛を極めつゝ今日に

支那東海黄海方面に活躍する機船底曳網漁船及漁獲物

及んだ。何しろ大は一千噸級の汽船や二百噸級の發動機船で、海底縦横に網を引廻すのであるから、漁獲能率は素晴しく優秀で、魚群の棲む所、文字通り一網打盡の概がある。そこで魚類の蕃殖上、是等の漁業を爲すが儘に放任して置くことは害があると云ふ見方から、次第に取締が強化され、船數の制限、禁漁區、操業期間の設定などに依り政府は濫獲の防止に努めてゐるが、魚を求めて倦むことを知らぬ漁業者等は、世界の海洋を股にかけて次々と未開の漁場を開拓し、濠洲に中南米に沿海州に出漁して漁利を收め、汽船トロールは一千萬圓、機船底曳は五

千萬圓以上の漁獲を毎年擧げてゐる。

是等の漁獲物は主として內地で消費せられ、前に述べた北洋漁業が輸出貿易に大なる役割を果してゐるに對し、之は國民の保健資源として、北洋漁業に劣らぬ功績を擧げてゐる。

遠洋鰹鮪漁業

目に青葉　山ほとゝぎす　初鰹、

初夏の景物初鰹と、秋から冬に向つての鮪の味は江戸つ子たらずとも垂涎三尺、我々日本人には最も馴染深い魚である。それだけに鰹鮪の漁獲は獨木舟時代の太古から行はれて來たが、何と云つても發動機船の出現が此の漁業の發達に拍車をかけた事は疑ひを容れない。今や鰹鮪漁業に從事する漁船は、大は數百噸のヂーゼル漁船から小

太平洋で活躍する鰹鮪漁船

は十數噸の燒玉漁船に至るまで其の數、千數百隻に及び、夫等の漁船は內地沖合は云ふ迄もなく、北は千島、北海道から南は外南洋、東は二千數百浬の彼方、太平洋の中心ミッドウェイの邊までも活動範圍として縱橫無碍に活躍してゐる。

宜なる哉、一ヶ年の總漁獲高五千萬圓に達し、併も鰹鮪とも殆んど同額の二千二三百萬圓宛の漁獲高を示してゐることは、兩々相對峙して一歩も讓らざるの觀がある。就中、鮪罐詰は歐米に輸出されて年々五—六百萬圓の外貨を得てゐること、漁期が殆んど周年に亘

ることは、鰹に優る鮪の强味であらう。

鰹は誰でも知つてゐる通り、生きてゐる鰯を水面に撒いて魚を誘ひ集め、之を食はんとして躍動する鰹の群を擬餌鈎で釣上げるのであるが、凡に揉まれる枯草の様に數千本の釣竿が前に後に搖れ動く態や、釣上げた鰹が濃藍色の背や銀白の腹を返して甲板に飛び散る狀は極めて壯觀である。之にも優して豪快なのは鮪延繩漁業であらう。蜿々數浬に亘つて一直線に張り延す幹繩に、一定の間隔を置いて結んである枝繩が、恰も注連繩の樣に海中深く垂れ下り、其の先端に付けてある釣針には烏賊や鯖の丸餌が生あるものゝ樣に浮動して鮪共の食慾を唆る。海上には漁具の在所を示す赤や白の小旗が潮風にヘンポンと飜つてゐる。軈て一定の時間が過ぎると、漁師達は力を合せ曳々聲を擧げつゝ枝繩の釣針を深く呑み込んでゐる數十貫の大鮪を引揚げにかゝる。繩を手繰るにつれて巨大な獲物が濃藍色の海中を右に左に荒れ廻りながら次第に水面に其の姿を現はし初める。其の瞬間こそ漁師に取つて譬へやうなき醍醐味であるが、時

には鮪の代りに海のギャング——獰猛な鮫が怒りの形相物凄く、蜿打廻りつゝ漁獲されることも稀らしくない。

延繩で漁獲せる梶木鮪

ともあれ、刺身となり鮨に握られて都人士の味覺を喜ばす鰹や、鮪も、不自由な海上生活に耐へ、不斷の危險を冒して苦闘する漁業者の賜物であることを銘記したい。

其の他の海洋漁業

まだ〳〵海洋漁業には各種のものがあり、沖合に遠洋に、さては海外に幾多の漁船中には十五—六噸位の小型の海洋

漁業船さへ勇敢な活動を續けてゐるのである。

大衆の食卓を賑すばかりでなく、新興産業である油脂工業になくてはならぬ原料ともなり、又魚肥として農業生産上に重要な役割を演じてゐる鰯を獲る揚繰網や巾着網等の旋網漁業。これは遠洋鰹鮪漁業の様な壯快味はないが、一網打盡を地で行く漁業で一遍に何十萬何百萬と云ふ鰯が汲み揚げられる。鰯と言つても馬鹿にならぬ。其の利用價値は極めて高く、食用としては鮮魚としてばかりでなく、目刺しになつたり、煮干や削節として、色々な形で利用されるし、魚油、魚肥としても非常時局に於ける重要な地位を占めてゐる。のみならず罐詰に製造され南洋その他の諸國に輸出されて貴重な外貨を獲得してゐるのである。

又新興漁業の最尖端を行くものとしてベーリング海の底魚冷凍漁業を擧げる事が出來る。

半歳を凍結と晦冥の中に無氣味な沈默を續ける北洋は、長い冬の間、門戸を堅く閉

して、どんな勇敢な漁業者の侵入をも許さない。そして海底深く潜む魚類は人間の採取から逃れて、一冬を安穩に暮す譯であるが、斯うした半漁半休の狀態こそ自然が漁業者に課した不文の蕃殖保護法であり、取締制限であると云へる。この意味に於て北洋の底魚は永久に無盡藏であり、ベーリング海は水産食糧の巨大な貯藏庫である。大袈裟に云へば、ベーリング海の存する限り、內地沿岸の魚を漁り盡しても、我々は水産食料には事欠かないで濟むと云ふことになる。

一萬噸の巨船たる冷凍船厚生丸を母船とするトロール船がベーリング海に出漁して冬の間、貯へられてゐた底魚を漁獲し、之を冷凍魚として食料の大量供給に備へ、又魚糧に製造して歐米其他に輸出しやうとする計畫、即ち北洋に於ける底魚冷凍漁業は最も近代化された新興漁業として其の將來性は注目に値するものがある。

結び

海洋美を說く人、海國々民の意氣を談ずる人は多いが、さて海洋漁業の本質を判へる人は餘りにも少い。海洋を理解せんとすれば先づ海洋漁業を知らねばならない。

海上產業として素より運輸業を忽せには出來ない。日の丸の國旗を揭げて世界の津々浦々の港に出入する貨客船、日本の商權を擴張し國威の發揚を爲す商船の存在は海を語る上に誰でも見逃し得ない一つの重要な事柄である。だが併し商船は海洋を單に航路として利用するに過ぎないのである。謂はゞ海は商船にとつては汽車のレールにしか相當しないのである。レールは實に重要なものではあるが、永久にレール以上の何物でもない。海は併し單なるレールではない。海は夫自體尨大な生產力を持つてゐるのである。此の生產力を活かすものが海洋漁業なのである。生產母體としての海洋は我が海洋漁業者の手に掛かると國民の活動線たる營養食糧を豐富に產出するばかりでなく年額一億數千萬圓に上る金(キン)を生み出すのである。レールとして海洋を利用する國は多く且つ我が國の夫を凌駕する先進國も少くない。然し海洋の生產力その物を活用

する海洋漁業に於ては我が國に比肩し得る國は他にないのである。世界に誇る我が海洋漁業は大は二萬噸から小は二十噸內外の一萬數千隻の漁船が世界の海洋を縱橫に馳驅する我が海洋漁業、それは世界に誇るに足るものであり、又他國の追隨すら許さないのである。眞の海國民としての意氣は正に我が海洋漁業の實體に現はれてゐると謂ふ事が出來るであらう。

海洋は陸地の延長であるといふ觀念を忌憚なく表現する我が海洋漁業を知らずして海洋を談ずる資格はない。海國民を以て任じ、夫を誇とする我が國民はもつと〳〵海洋漁業を理解せねばならぬ。

（以　上）

海洋漁業協會概要

一、綱領

本協會ハ官民協力シ海洋漁業ノ振興ニ關スル方策ノ樹立及其實現並ニ國論ノ喚起ヲ計リ以テ漁業ニ依ル海洋制覇ノ使命達成ヲ期ス

二、目的ト事業

本協會ハ左ノ事業ヲ行フヲ以テ目的トス

遠洋並ニ海外漁業振興ニ關スル方策ノ樹立、國論ノ喚起並ニ其ノ實現

(一) 調査研究ノ方法

遠洋並ニ海外漁業振興ニ關スル各種事業ニ關シテ其ノ事業毎ニ夫々委員會ヲ設ケテ調査研究シ其ノ結果ヲ理事者ニ於テ實行ニ移スモノトス

(二) 實行方法

(1) 政府ヘ意見具申
(2) 貴衆兩院ヘ建議、請願
(3) 政府兩院其ノ他ヘ資料提供
(4) 業界其ノ他ヘ意見又ハ調査研究ノ發表
(5) 講演會懇談會其ノ他集會ノ開催
(6) 「パンフレット」及會誌ノ發行
(7) 事業ノ促進及斡旋

三、會費ト會員

會員ハ通常會員、特別會員、及名譽會員ノ三種トシ通常會員ハ會費年額參圓、特別會員ハ會費年額拾圓以上ヲ納ムルモノトス

名譽會員ハ會費ヲ要セズ

四、役員

理事長 越田德兵衛

常務理事 高山伊太郎

理事

石澤豐　市村久雄　眞藤愼太郎　須田立
伊藤達三　井野碩哉　十川正夫　高碕達之助
植木憲吉　江副元三　高嶋三郎　田島達之輔
遠藤三郎　大前敏一　橘英三郎　田中丸祐厚
片山三郎　片山七兵衛　田村啓三　寺田省一
川本邦雄　北岡春雄　外山源吾　長島吉次郎
木下辰雄　木村泰治　長友寛　中部謙吉
栗田要吉　澁澤信一　野崎民平　原辰二
平塚常次郎　蓑田靜夫
三宅發士郎　宮田彌治郎
山口次平　山本豐

監事

太田康治　春日信市
杉浦保吉　關根礒吉
南正樹

(五十音順)

407
250

昭和十五年七月五日印刷
昭和十五年七月八日發行　非賣品

東京市大森區調布千鳥町六四九
發行人　高山伊太郎

東京市麴町區丸ビル四階
發行所　海洋漁業協會
電話丸ノ内(23)五五四七

東京市京橋區築地一ノ一四
印刷人　川橋源三郎

1 沿海州 機船底曳網漁業 鮭鱒、鱈、鰊漁業
2 オホーツク
3 カムチツカ西岸 母船式鮭鱒及鱈漁業、露釣漁業
4 カムチツカ東岸
5 北氷洋
6 ブリストル灣
7 カナダ
8 北米合衆國
9 メキシコ灣
10 パナマ近海
11 ハワイ
12 アルゼンチン近海
13 南洋群島
14 ニューカレドニヤ
15 アラフラ海
16 濠洲西岸
17 セレベス海
18 セレベス
19 南氷洋
20 北ボルネオ
21 フイリツピン
22 新南群島
23 レンガポール
24 海南島
25 支那東海黃海南支那海方面
26 内地機船底曳網漁業行動範圍
27
母船式捕鯨業
北ボルネオ機船鮪漁業
フイリツピン機船鮪漁業
鮪漁業
レンガポール機船追込網、鮪漁業
海南島近海機船底曳網漁業
トロール並に機船底曳網漁業
母船式鮭鱒漁業
セレベス機船鮫漁業
トロール漁業
鮪漁業
打瀬貝採取業
高瀬貝採取業
鮪漁業
トロール漁業
在ハワイ邦人漁業
在パナマ邦人漁業
トロール漁業
在南洋邦人漁業
在濠洲邦人漁業
鮪、トロール漁業
母船式鮭鱒及鱈漁業
北米合衆國
在米合衆國邦人鮭鱒漁業
在カナダ邦人漁業
トロール漁業
メキシコ灣
パナマ近海
ハワイ
アルゼンチン近海
鮪漁業
トロール漁業
南洋群島
ニューカレドニヤ
アラフラ海
濠洲西岸
セレベス
南氷洋
北ボルネオ
フイリツピン
新南群島
レンガポール
海南島
支那東海黃海南支那海方面
内地機船底曳網漁業行動範圍

終